

政務活動費活動報告

(1) 出席者（会派名・個人名）

山内善男

山田多津子

(2) 実施日：

2014年10月29日（水）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

J R稲枝駅は10月30日、河瀬駅は11月20日に駅の売店が閉店となりますが、両駅とも窓口の閉鎖時間が長く、その間は無人駅状態となります。

(2) 本市における課題

駅に売店は販売だけの目的ではなく、窓口閉鎖時間帯の案内や高齢者や障害者への声掛けなどの心配りをしています。

市として、市民の利便性が図られる駅になるようJ Rに強く求めていただきたい。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

J R稲枝駅、河瀬駅の売店存続の要望

(2) 選定地：

J R西日本京都支社

【3. 調査結果】

(1) 内容

J R稲枝駅は10月30日、河瀬駅は11月20日に駅の売店が閉店になると聞き、利用者から「なくさないでほしい」「残してほしい」の声をたくさんお聞きし、日本共産党議員団は稲枝駅と河瀬駅で、「売店閉鎖をやめ、存続のための要望」署名を行いました。両駅で1時間余りの活動でしたが役400筆の署名が寄せられました。その中には高校生が事前に配っておいた署名用紙を知り合いにお願いし、夕方署名活動をしているところに持ってきていただくなど、多くの皆さんの切実な思いが寄せられました。

ある高校生は「いつも優しく私たちを見守ってくれている」「今日は元気ないな、どうしたんやと声をかけてもらってうれしかった」「売店がなくなったらさびしくなる、残してほしい」「J Rの勝手な判断だけで閉店にしてしまう。周りに店もなく、ますます駅周辺が寂れてしまう」などなど署名をしながら多くの声が寄せられ、当日はこの声を紹介し署名を手渡しました。

(2) 考察

稲枝駅舎が 2016 年 3 月には完成予定となっておりますが、無人駅状態では駅舎がきれいになっても利用者の利便性は図れません。

存続の要望に対し、J R は「利用者数が減少してきており、採算性が取れないため閉鎖はやむを得ない」と回答しました。

売店が果たしていただいている役割は、気配り心配りをさせていただいて、利用者が安心してできる駅となっています。

大久保市長も、J R 京都に直接出向き売店の存続の要望を行っていただきましたが、引き続き、存続されるよう要望を続けていただきたい。